

「ごみの削減」から始める脱炭素(ゼロカーボン) 地球にも、予算にもやさしい村づくり

10月は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間」です。現在は「リフューズ」も加わり「4R」とも言われます。今回は、私たちの生活から毎日出る「ごみ」と、地球温暖化を防ぐ「脱炭素(ゼロカーボン)」の深い繋がりについて考えます。

■ 脱炭素(ゼロカーボン)とは？

脱炭素とは、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)をはじめとする温室効果ガスの排出量を全体として「ゼロ」にすることです。恩納村でも、将来にわたって美しい自然と豊かな暮らしを守るため、2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取り組みを進めています。



■ ごみが減ると、なぜ脱炭素になるの？

「ごみの削減」と「脱炭素」は、実はとても密接に結びついています。可燃ごみを燃やすときには大量のCO₂(二酸化炭素)が発生します。特に、プラスチックなどの石油由来のごみを燃やすと多くのCO₂が排出されます。また、生ごみの約8割は「水分」です。水分を多く含んだままごみを燃やすと、焼却炉の温度が下がり、温度を維持するために余分な補助燃料(石油など)を消費してしまいます。

また、ごみの量が減れば、収集車の運搬回数も減り、車両から出るCO₂も削減されます。

■ 恩納村の生活ごみの処理コスト

恩納村の令和7年度のごみの量は前年度に比べて増加しており、家庭から出る生活ごみの処理に係る総事業費だけで年間約8,209万円(推定)にのぼります。ごみを減らすことは、温室効果ガスを削減するだけでなく、村の大切な予算(処理コスト)を削減し、暮らしやすい村づくりのための他の予算を充てることにも直結しています。

(参考:広報おんな令和8年6月号)



■ 今日から実践!ごみを減らすワンアクション

- 生ごみは捨てる前にしっかり水切り
- マイバッグ・マイボトルの携帯
- 資源ごみを分別してごみ出し
- 買い物前の確認で、買いすぎ注意!



お問い合わせ

ごみの分別・減量・脱炭素について:村民課 ☎966-1205

SDGsについて:企画課 ☎966-1201